

令和5年度 学校関係者評価委員会 議事録

開催日	令和6年3月10日	時間	12:00~13:30	開催場所	6階会議室	文責	岸野
-----	-----------	----	-------------	------	-------	----	----

参加者	外部委員	古屋 素衛 氏、高橋 尋 氏、小川 智也 氏
	内部委員	吉田 洪先、曾我部 貴仁、小野 博道、稲田 久、岸野 佑宣
欠席者	外部委員	金城 巨樹 氏
	内部委員	森 倫範

議 題	1	学校関係者評価委員会の主旨説明
	2	経営などについて
	3	入学者の意識変化等について
	4	教員力・授業力・退学 等について
	5	授業以外の学習について
	6	学生募集について

内 容	<p>各議題について以下のような内容について討論を行った。</p> <p>1) 学校関係者評価委員会の主旨説明 学校関係者評価委員会が初参加の先生方に対して主旨の説明を行った。</p> <p>2) 経営などについて 資金収支の説明を行い、健全な経営であることの説明を行った。</p> <p>3) 入学者の意識変化等について</p> <p>①学生の考え方に変化 →リスクを背負い開業意識が減ってきている。</p> <p>②業界全体の魅力 →鍼灸・柔整魅力を上手く伝えることが上手くできていない。 解決法としては業界団体・卒業生 等の外部と産学連携を取りながら入学生に魅力を伝えていかないといけない。(オープンキャンパス・授業 等)</p> <p>③卒業後のビジョン →卒業後のビジョン(活躍現場)を伝えていく必要がある。 臨床実習や外部団体の先生に開業時の「魅力」「知識」「リスク」などを伝えてもらう。</p> <p>4) 教員力・授業力・退学 等について</p> <p>①「授業の理解度」・「面談力」・「指導力」等の教員力強化 →教員力が不足している教員がいると、退学率 等に大きく影響する。 教員力のレベルが高いと学生のやる気を出させる事ができる為、「退学率」・「合格率」につながる。(教員力向上のために研修などを行う必要がある。)</p> <p>②クラスメート同士の助け合い(自習・グループ学習) ※1 →仲間意識が重要になってくるが、その環境を作るにも教員力が必須となる。</p>
--------	---

5) 授業以外の学習について

①「臨床現場で役に立つ資格・知識」・「意欲」

→日本トレーニング協会（JATY）のトレーナー教育等の現場教育の実施。
匠一堂 等で先人の技を伝承している。

②臨床現場で実施している内容が明確化 ※2

→イメージを明確化し退学をするのを防ぐ。

6) 学生募集について

①18歳人口（高校生）が減少している（入学生の減少）

→入学者確保のために社会人から高校生にシフトしているが一定数は社会人等もターゲットに入れていく必要がある。

②新たな対象者の模索

→高校生だけでは定員を充足できない為、様々な方面から募集の窓口を確保していく必要がある。

③手に職を身に付けたい入学者 ※3

→明確な意思（卒業後）がなく手に職をつけたいという者も入学をしている。
卒業後の活躍現場を知ってもらう必要がある。

④技術の体験（柔整・鍼灸の治療を受診履歴がない者たちがいる）

→オープンキャンパス等の際に体験など来校者に体験を促している。 ※4

⑤入学者の満足度（充足率）

→学園の魅力を伝えるために、必要を入学者の目線に立ち本当に欲しい情報を発信しているのかを考えて募集を実行する。

⑥広報職員 等のスキルアップ

研修など行い入学者増を目指さないといけない。

※1 仲間作りを行う方法

合宿など（新型コロナウイルス前）を、行っていたが現状できていない。
合宿等は仲間を作るうえではメリットになるが、デメリットになる場合もあるので気を付けていく必要がある。

※2 トレーナー現場（サッカー）はPT（理学療法士）がチームに参入している。

あとは鍼灸がメインの場合が多い。PT（理学療法士）はリハビリがメインである。
チーム（選手）からの要望は症状緩和・除去をしてくれている人を必要としている。

※3 入学者について

入学前教育等が必要となる。何を学ぶ（座学・実技）等の学習方法を教育していく。

※4 オープンキャンパスの工夫 等

職業理解 等を深めてもらう必要がある。（トレーナー・臨床家を講師として呼ぶ等）
「教科書の内容」・「実技」等の見学・体験をする。

以上